

仁淀病院 院長 松浦喜美夫

急速に少子高齢化が進む我が国では、平成37年に「団塊の世代」が全て75歳以上となる超高齢社会を迎え、高知県では全国に先駆け平成32年に高齢者人口がピークを迎え、次第に減少に転じると予測されています。超高齢化社会を迎え、高齢者が生き甲斐を持って生活し健康寿命を全うすることが大切ですが、高齢者は加齢に伴い一人ひとりが持つ病気、慢性疾患などの数が増え、病気や障害を抱えながら、生活をするようになってきます。

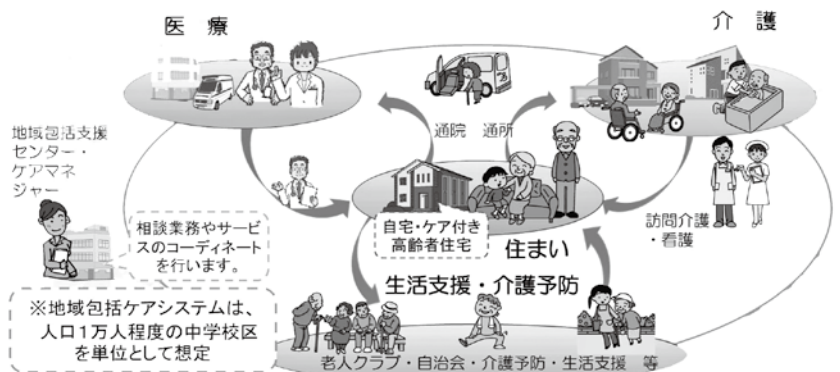
近年では、治療（キュア）に加え介護（ケア）の必要性が増し、病気と共存しながら、生活の質（QOL）の維持・向上を図っていくことが大切になってきました。また、医療ニーズを併せ持つ重度の要介護者や認知症高齢者が増加するなど、医療及び介護の連携の必要性はこれまで以上に高まってきています。こうした中で、住民一人ひとりが、医療や介護が必要な状態となっても、できる限り住み慣れた地域で安心して生活し、その地域で人生の最期を迎えることができるよう、医療介護が連携した支援体制（地域包括ケアシステム）を構築していくことが求められています。

仁淀病院では以前から地域連携室を中心に、併設している訪問看護ステーションや介護老人保健施設（仁淀清流苑）、吾川郡医師会、行政、包括支援センターなどと連携して施設間のネットワークを作り上げてきました。同時に、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、ソーシャルワーカー、ケアマネージャーなどの、多職種間の連携による人的なネットワークも広げ、医療と介護の連携した地域包括ケアシステムの構築を目指してきました。

この連携により多施設と多職種間で顔の見える関係づくりができ、患者さんの情報が共有され、入退院時には自宅や施設などへのスムーズな移行など、安心して療養や介護を受けられるように切れ目のない支援が可能になりました。さらに在宅に帰られた後も、訪問診療や看護、リハビリ、管理栄養士、薬剤師などの医療専門職によるチーム医療が継続して受けられるように、また介護の必要な方にはケアマネージャーなどの連携による支援を行っており、今後も高齢者や障害者に必要な医療介護のサービスの提供やQOLの向上を図ります。

連携に不可欠な情報の共有については、高知大学医学部と協働でICT（情報通信技術）を活用し、高知医療・介護情報連携システム（多職種連携における「患者情報の共有」と「コミュニケーション支援」）を提供するシステムを構築しました。このシステムを平成28年から吾川郡医師会や訪問看護ステーションなどと協力して運用を開始しており、より効率的に多くの情報が共有可能となり、利用者が安心して暮らせる連携を目指しています。

地域包括ケアシステムの姿（厚生労働省）



## 訪問歯科診療のご案内

有料広告

寝たきりなどの理由で通院できない方、認知症などで自分の歯みがきが不十分な方のために、自宅や施設でご希望に沿った歯科診療、口腔ケアを行っています。医療保険自己負担金のみで交通費はいただいております。



**安光歯科**

いの町天王南2丁目1-1  
(天王ニュータウンサンプラザ西隣)

☎891-6488

安光歯科

検索